

関村直人：(東京大学大学院工学系研究科教授)

①：「炉心溶融（メルトダウン）はありえない」

「冷却水が漏れている可能性は低い」

(「週刊現代」4月16日号より)

■■嘘八百を言い続けてきた、ということ。

②：「福島第一原子力発電所1号炉に対して行った立入検査の結果について報告する」「検査を実施し、必要な事項を確認した。」

(2010年8月立入検査、報告書2011年2月7日、総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会高経年化対策検討委員会高経年化技術評価ワーキンググループ主査＝関村直人)

■■地震直前に大丈夫というお墨付きを与えた主査が関村氏なのである。

川島隆太：(東北大学加齢医学研究所教授)

「米ソの核実験によって、世界中の空中の放射性物質の濃度は、福島第一原発の事故の直前の数百倍から1000倍のレベルになっていました。しかし、そのために発がん率が高まった事実はありません」

(「週刊現代」4/16日号より)

■■発がん率どころか、統計的に乳児死亡率が確実に増加している。他の事例を過小評価して出して、現実の放射能汚染を小さく見せる手法はやめませんか。2重に事実を歪曲することになります。それらすべてが今後も原発を推進するためになされている歪曲かと思うと、それは犯罪的行為と言わねばなりません